

## ウエスギの理念と方針



総合リサイクル企業のウエスギ（本社〓三重県四日市市）はこのほど全国に先駆けて、アルミ電線のナゲット加工をスタートする。国内での資源循環を重視する同社の理念や今後の方針について、同社の上杉圭司社長に聞いた。

### 上杉圭司社長に聞く

——なぜ国内での資源循環が重要なのか。  
「日本は資源の少ない国で、その日本が唯一多量に持つ資源が金属に代表されるリサイクル原料だ。だが、近年では、このリサイクル原料も加工方法や費用の問題から海外に流出してしまっている。これを国内でリサイクル

# “国内”再資源化を構築 アルミナゲット加工に全力

ルなどを主に行っている。また、地域の資源回収なども取り組んでおり、地域と密着したリサイクル活動を展開している」

——業界に先駆け、アルミ被覆線のナゲット加工をスタートする。その意義は。  
「アルミ被覆線は自動車用ワイヤハーネスなどへの採用も予定されており、今後も使用量の増加が予測されている。リサイクル需要もそれとともに拡大するだろう。実際、国内でのリサイクルを求めている声は日増しに高まっている。これまでは人件費が安い中国などで手選別、リサイクルされてきたが、機械加工を可能にすることで、国内での再資源化に道

を目標にナゲット加工量を現状比倍増の約300トに引き上げていくつもりだ。その後の展開は、今後の需要動向を見極めながら慎重に判断していきたい」  
——最後に、めざすべきリサイクルの形について。  
「ナゲット加工も含め、高品質かつ安全、安心にリサイクルすることで『ウエスギ』のブランド化に努めていく。あの会社なら安心して任せられると、世界中の皆さまから信頼されるリサイクルの実現をめざす」

（服部 友裕）

——足元のリサイクル量はどの程度か。  
「現状、非鉄金属の再資源化量は月間100トほど。樹脂は同100―200ト、ナゲット加工量は同150トほどだ。金属原料は発生量が減少傾向にあり、継続して安定した数量を確保できるかが課題だ」

——今後の事業展開は。  
「当面はアルミのナゲット加工に全力を尽くしていきたい。来春

「銅、アルミ、ステンレスなどの非鉄金属リサイクルのほか、被覆線のナゲット加工、P船、水処理リサイクル